情報番号：教育技法―15
テーマ：セブンクロス法（７×７法）
編著者：IBEX-T

## １．セブンクロス法とは

７×７法（セブンクロス法）は、アメリカのビジネスコンサルタントのカール. E. グレゴリーが考えたデータの整理法で、データを縦横７項目ずつ整理するところからこの名がついた。人間が空間的に把握できる情報量は３～５つぐらいといわれており、処理能力の高い人でも７つ程度だといわれている。７つにまとめるということは、要素もある程度残るし、空間的にも把握できるというよさがある。単独の技法であるが、ブレインストーミングのアイデアのまとめや、問題解決の研修の中で出された問題点や発想（意見）を整理するのに大変役立つ技法である。

この技法は、単にデータを整理、統合できるだけでなく、比較評価やウエイトづけ、優先順位化にも活用できるというメリットもある。ＫＪ法がデータの整理、統合に盛んに活用されたが、時間を要するので、研修では７×７法が活用されることが多くなった。